

梅の花が咲く季節になりました。「松竹梅」の「梅」といいますと三番目という印象がありますが、冬の寒さの中でも緑色を保つ「松」、風雪の中でも折れること無く立っている「竹」、寒さの中で他の花に先駆けて良い香りと共に美しく咲く「梅」は、古来より人の生き方に喩えられて、それぞれ同じように敬意の対象となっていたようです。順番をつけたのは、後のお蕎麦屋さんなど商売の中でのこと……。

江戸時代の服部嵐雪に、「梅一輪 一輪ほどの あたたかさ」という俳句があります。

この句は、「梅一輪を咲かせているわずかな暖かさに春の訪れを実感する」ということと「寒さの中、梅が一輪咲いた、寒い冬にその一輪の梅くらいの暖かさを感じる」という、春の訪れを表す意味と、冬の寒さの中に暖かさを感じるという二通りの意味にとられているようです。いずれの意味からも、寒さを切り開く強さを感じます。

人を梅の姿に重ねてみたとしたらどうでしょうか。

人は生きて以上、食べなくてはいけない。着なくてはいけない。寝なくてはいけない。そのためには働かなくてはいけない……。

一つ目標をクリアしたら、その上の目標へチャレンジ。そしてまたその上へ……という、尽きる事無い挑戦を強いられたものと感じることもあるでしょう。

しかしながら、寒さをじっと耐え、他の花に先駆けて寒さの中にも花を咲かせる梅を見ると、道元禅師の師である如浄禅師の、

「梅早春を開く」という言葉を思い出します。“早春に梅が咲く”のではなく、“梅が春を開く”というのです。人の生き方も同じではないでしょうか。

人生は誰かがレールをひいてくれるわけではありません、自らが判断して自らが選んで自らが歩いて行く……。

さまざまな困難を経た人には、その歴史とともにそこはかたなく漂う力強い雰囲気があります。あたたかも、梅が咲くのと同時に良い香りを漂わせるように……。

梅の開花を待ちながら、こんなことを考えました。